

平成 27 年度 記者懇談会（第 4 回）の記録

日 時 平成 27 年 7 月 31 日（金）午後 4 時 00 分

場 所 水道庁舎 4 階 会議室

記者数 6 人

同席者 阿部副市長、天野副市長、総務部長、健康福祉部長、経済部長、教育部長

次 第 1 臨時福祉給付金・子育て世帯臨時特例給付金について

2 プレミアム商品券・建設券、子育て支援商品券について

3 子育て支援拠点の愛称決定について

4 その他について

1 臨時福祉給付金・子育て世帯臨時特例給付金について

説明内容

（市長）

まず第 1 点目の臨時福祉給付金・子育て世帯臨時特例給付金について、でございます。

平成 26 年 4 月から消費税率が 8%に引き上げられたことに伴いまして、所得の低い方や子育て世帯への負担を緩和するための臨時的な措置として、平成 26 年度に続きまして、平成 27 年度も臨時福祉給付金・子育て世帯臨時特例給付金を支給することとなりました。これまで準備を進めてきたところでございますけれども、8 月 8 日から申請が始まりますのでお知らせをさせていただきます。

概要につきましては、資料に記載のとおりでございますが、この実施主体は市町村でございます。なお、全額が国庫補助の事業でございます。

まず、臨時福祉給付金でございますが、平成 27 年 1 月 1 日時点で岩見沢市の住民基本台帳に登録されている平成 27 年度市民税均等割が課税されない方が対象となっております。今年度の支給には、平成 26 年度のような年金受給者への加算措置はございません。支給額は、対象者 1 人につき 6 千円で、対象となる方は、予算では 20,800 人を予定しているところでございます。

次に、子育て世帯臨時特例給付金でございますが、平成 27 年 5 月 31 日時点で、岩見沢市の住民基本台帳に登録をされている 6 月分児童手当の受給者が対象となっております。その前年の所得が児童手当の所得制限額以上の方は対象となりません。支給額は、子ども 1 人につき 3 千円で、対象者は、予算では 9,700 人を見込んでいます。

この 2 つの給付金のどちらにも該当する場合、平成 26 年度では臨時福祉給付金のみの受給でございましたが、今年度は、両方の給付金を受けることができることとなっております。

市民の皆さまには、広報の 7 月号やホームページで制度の概要や申請方法などの周知を行っているところでございますが、市では、8 月初めに対象と見込まれる世帯に対

しまして、案内文・申請書・返信用封筒などを郵送する予定でございまして、また、このほか公共施設にポスターを掲示するなど、周知を図ってまいりたいと考えているところでございます。

申請は郵送によって行っていただくことができますが、市の窓口でも受付窓口を開設をいたします。

申請受付期間は、8月8日の土曜日から平成28年、来年の1月29日までの約6か月間となっております。

受付初日の8月8日と翌9日の土日には、市役所本庁、北村、栗沢の両支所、コミュニティプラザ、幌向総合コミュニティセンターほっとかんの5か所に特設窓口を設けることとしております。

また、8月10日（月）以降につきましては、市役所本庁、北村栗沢両支所と、有明交流プラザ、朝日、幌向、美流渡の4か所のサービスセンターの、合計7か所で受付業務を行ってまいります。

質疑応答

なし

2 プレミアム商品券・建設券、子育て支援商品券について

説明内容

（市長）

最初にプレミアム商品券でございまして、5月の記者懇談会でお話させていただいたとおり、国の緊急経済対策の交付金を活用いたしまして、プレミアムを20%付けまして、発行総額が過去最大となる4億8,000万円分の商品券の応募受付を6月1日から開始をしたところでございます。

受付当初は、平成24年度に、10%のプレミアムをお付けした商品券を1億円分発行した際に、完売までに約2週間を要したこと、今回はプレミアム率を前回の2倍といたしまして、発行額が4倍の4億円分あること、他市町で販売に苦戦している事例も散見されたことなどから、実行委員会でも売れ残りの心配をしておりましたが、その心配をよそに、受付開始早々に6月5日受付分で、発行予定の4万セットを超えてしまいました。最終的に発行予定の2.2倍となる90,263セットの応募がございました。

市といたしましては、市民の皆さまの域内消費に対する意識の高まりを市内経済の好循環を促す好機と捉えまして、実行委員会からの追加支援の要請も踏まえて、応募者がもれなく当選とするための必要経費を、第2回市議会定例会において追加補正し、これを受けて実行委員会から応募者全員の20,240人に当選通知を発送したところでございます。券の販売につきましては、7月5日から10日まで、赤レンガホールあるいは商工会議所、商工会の事務所で行いまして、申込総数の99.7%に当ります89,975セット、額面といたしましては10億7,970万円分を販売したところでございます。

なお、商品券が使える加盟店につきましては、随時受付を行ってございまして、7月30日現在で683店舗となっております。ちなみに平成21年度は625事業所、平成24年度は579事業所でございます。

商品券の有効期間は7月5日から12月31日までとなっておりますが、このうち7月21日までに加盟店から実行委員会への換金請求があったのは、1億円を超えております。発行総額の約1割に上っていることから、順調に活用されているものと思っております。

次に、プレミアム建設券の利用状況についてでございますが、登録事業者につきましては7月30日現在、219の事業所となっております。

建設券の使用申し込みは、これまでに1,065件ございまして、全体の工事見積額10億935万5,065円に対しまして、枚数では11,618枚、額にいたしますと6億6,803万5千円分の建設券購入の申込みとなっております。既に発行予定数の7割を超える使用率となっておりますことから、有効期限である11月30日を待たずに完売できるものと考えてございまして、ご利用を計画されている方は、お早めに申し込みをお願いいたします。

建設券の利用の内訳といたしましては、住宅改修のほか、網戸の取替などの小額工事や庭などの外構工事など様々なリフォーム工事で活用されてございまして、1件当たりの工事費約94万8千円に対し、建設券の申し込みが62万7千円分、枚数にしますと平均10.9枚のご利用となっております。

また、工事総額は、平成26年度のあんしん住まいづくり助成事業では、約7億4千万円でしたが、今回は7月30日現在で既に10億935万円と、約1.5倍となっている一方で、1件当たりの平均工事費は、あんしん住まいづくりの約2/3となっていることは、これまで補助対象とならなかった小規模リフォームにも多く活用されているものと考えてございまして、市民の皆さまにとっても今回は使い勝手が良く、消費喚起にも繋がっているものと考えているところでございます。

なお、これまでの販売済件数は837件で、枚数といたしましては8,769枚、プレミアム分を含めた総額は5億421万7,500円となっております。

地域経済を活性化するには、まず、地域内の消費喚起を促し、企業の活性化、雇用の創出、所得向上が図られ、更なる域内消費に繋げるなど、市民、企業、行政が一体となって地域内の好循環に向けて取り組んでいくことが効果的であると考えてございまして、今回発行する総額約20億円、正確には19億9,970万円の商品券と建設券が、市内経済活性化に向けた起爆剤となることを期待しているところでございます。

続きまして子育て支援商品券について、でございます。

6月から申請を受けていた子育て支援商品券交付事業でございまして、7月30日現在の受付状況をお知らせします。

申請状況等は資料に記載の通りですが、発送件数7,032件に対しまして、6,784件の申請となっております。申請に対しまして6,734件3,348万円分の商品券を郵送しております。

また、5月2日から11月1日までに市内に転入、又は出生された方も対象となりますので、その方々には、市民サービスセンター、あるいは支所等で届出の際に申請書を配布しており、今後も申請を受付けてまいります。

対象者のうち、未だ申請されていない265世帯に対しましては、7月23日に個別に勧奨させていただいたところでございますが、今後も対象となる方が申請忘れのないよう、勧奨を勧めてまいりたいと考えているところでございます。

質疑応答

(北海道新聞)

プレミアム商品券についてですが、予算上91,000セット用意し、実際の販売は89,975セットで差し引き1,025セットが余っている訳で、金額にすると1,230万円ですがこれは今後どのように対応されるのか今現在の考え方を教えてください。

(市長)

追加募集の考え方は今のところありません。

(北海道新聞)

換金状況で大型店と市内中小企業との割合は。

(市長)

前はそれぞれ5割だったのが、今回は6割が市内業者で大型店が約4割と聞いております。

(北海道新聞)

それはどのように受け止めていらっしゃいますか。

(市長)

市内の小売店舗やサービスの事業所で使われていますから、良い傾向だと思っております。

(北海道新聞)

先ほどの、残った1,025セットですが、消費喚起という意味ではこれも使われた方が好ましいと思うのですが。

(市長)

これだけ高額の商品券が市内で一定の機能を果たすので、現段階では実行委員会とも協議の上で追加発行は特に予定はしていないという状況でございます。当初予定の4万セットを大きく超えている状況にもありますので。

(北海道新聞)

もし、戻ったら市の一般財源に組み込まれるのですか。

(市長)

交付金事業ですので、最終的に精算をして、使用しなかった分は国に返すことになります。ただ、国と道の分は全部使った形になりますので、国と道の分を精算して、市の一般財源の持ち出しはその分減ってくるという形になると思います。

3 子育て支援拠点の愛称決定について

説明内容

(市長)

まず愛称でございますが、こども・子育てひろば 「えみふる」でございます。

応募して下さったのは、神奈川県の内河裕信（うちかわ ひろのぶ）さんでございます。

であえーる岩見沢の3階を子どもと子育ての拠点とするため、現在、整備を進めているところでございますが、その場所が、多くの市民の皆様に親しまれるようにと、広報いわみざわ7月号や市役所ホームページなどを通じて、7月1日から24日まで愛称を募集しておりました。

期間中、市内26名、市外19名の合わせて45名の方から、合計145点の応募がございまして、7月27日に、庁外の委員5名、庁内の委員1名による、愛称選考委員会を開催し、愛称を選定をいたしました。

選定理由は、岩見沢市子ども・子育てプランの基本理念を踏まえまして、笑顔あふれる施設になるようにという由来が、募集の趣旨に合致していること。また、特定の意味を連想させることの無い造語であることから、子ども・子育てに関わる様々な可能性を持つ施設としてイメージが広がりやすく、語感も子どもから大人まですべての年代にとって違和感なく受け入れられる響きを持っていることということを経由として報告を受けたところでございます。

今後は、専門家の方にロゴのデザインを依頼し、であえーる岩見沢の屋上に掲示する予定です。

質疑応答

(北海道新聞)

内河裕信さんの年齢、職業、岩見沢にゆかりは何かありますでしょうか。

(市長)

資料を持ち合わせておりませんので後で教育委員会の方からお伝えいたします。

(プレス空知)

作品はロゴをデザインの上となっているんですが、これは教育大の学生さんですか。

(教育部長)

委託をかけてやりたいということです。

4 その他について（記者からの質問）

質疑応答

（プレス空知）

週明けからポカテロの訪問団が出発して、市長も一緒に行かれると思いますが、記念訪問団は10年ぶりだと思いますが、市長の立場で行かれるに当たって一言お願いします。

（市長）

一番最初の岩見沢の訪問団の副団長で行きまして、翌年には団長で行きましてそれから29年経ってます。今回新たな団員の方と一緒に自分は市長という立場で行くことになる訳ですけども、大変楽しみにしています。当時大変お世話になった方ともお会いできることも楽しみにしています。

（プレス空知）

先週砂川の市議さんが酒気帯び運転で事故を起こして辞職され、今日は岩見沢市議の方に辞職勧告決議案が可決されていますが、あらためて市長からコメントいただけますか。

（市長）

議会としての意思の表れだと思っています。1回目は議会として辞職すべきですよという内容でしたが、今回は、決議をしたのに辞職してないことがおかしいという決議内容に変わっているため、1回目の決議と内容がちょっと違うのだなという思いを持ちながら聞いていたというだけですね。当然のことながら、酒気帯びとか酒酔い運転はしてはならないことですから。

（北海道新聞）

2点の質問ですが、まず総合戦略の策定期間が10月までで、残り3ヶ月と残された時間が短いという印象を持っていますし、中身を伴わないのに無理やり目指すのはどうかと思いますが、現在の状況として市長がどのように思っているのか教えてください。

もう1点は、ホームページで施設カルテが400箇所公表され、1970年代や80年代に建てられたものが多く、建て替え・改修・改築の必要性が出てきていますが、人口減、人口構成で維持することは厳しく統廃合にも踏み込んでいかなければならないと思いますがその現状について市長はどう思いますか。

（市長）

まず、総合戦略は10月の策定を目処に作業を進めています。かなり大変な作業に臨んでいるところです。期限に合わせるのか中身を充実されるのかというのであれば、当然のこととして中身を充実させることとなりますので、期限にこだわって作り上げてしまうという考えは基本的には持ってはいません。今努力しているのは期限に合わせて中身を充実したものを作り上げたいと思っています。

施設カルテですけども、当然のことながら廃止するものは廃止するということとなりますし、機能を一部代替の施設に移転をして維持をしていくとか、色んな観点があると思います。いずれにしても、現状のままを全て維持していただくだけでももの

すごい経費がかかるので、スリム化していきます。今ある施設全てを改修、改築するということにもなりませんし、適切な統廃合はあるということです。

(注) 記録の内容については、重複した言葉遣いや、明らかな言い直しがあったものなどを整理した上で作成しています。(作成：岩見沢市秘書課広報係)